

車両犯罪の撲滅をめざして

加藤電機株式会社
企画開発部
防犯設備士 第 11-22365 号

立松 千愛里



新年明けましておめでとうございます。

皆様には健やかに新年を迎えられましたことと心より
お慶び申し上げます。

私は2012年に委嘱を受けまして、防犯設備アドバイザーとして活動させていただいています。



私の住む愛知県は、日本の中央に位置し、製造業がさかんな地域でございます。世界的に有名な自動車メーカーなども本社を構えていますので車両保有台数も自然と多くなります。多いお宅では、家族みんなが1台ずつ保有していることなどもあるとか。海に隣接する土地があり海外への出国も可能な立地条件などから、このところ車両犯罪におきましては全国ワースト1が続く結果となっております。

所属する愛知県セルフガード協会においては2002年に発足後、住宅をメインとした活動を今まで行ってきましたが、自動車を対象とした活動についてもご依頼をいただく機会が増えてきているところでございます。

また、勤務する加藤電機株式会社では自動車用の防犯装置の販売を行っております。その関連もありまして、協会へご依頼いただきます自動車関連のご要望に

対しましては私のほうで対応させていただく機会をいただいている次第です。

主にイベント、講演でのガラス割り実演、機器説明、犯罪被害の実態等防犯への意識づけや皆様が防犯対策の一步が始められるような活動を、地域の警察署担当者様と一緒に実施させていただいております。

2013年のアドバイザー活動の中で印象に残っているのは、実際の車両を持ってきて市民の皆さん向けにガラス割り実演を行ったことです。



ガラスが割られないように…というところから防犯対策の提案を行うのですが、実際に車のガラスを割るのは初めての体験でした。しかもこの日は、一日警察署長としまして元F1レーサーの中嶋悟氏も一緒にイベントに参加されていて、私の行うガラス割りにも興味を持っていただきまして、実際にガラスを割っていただいたりすることもできました。このような貴重な体験の機会を与えてくださったことに感謝すると共に、少しでも車両犯罪撲滅に貢献できたらと思うところでございます。

意外にも住宅と自動車は対象物が違いますが考え方には相違がありません。

進入経路としましては、窓を割って入るものが多いを

占めます。そのためガラスを割られた場合、割った後ドアを開けられた場合の対策が非常に重要になってくるのです。

ガラスを割られる前、侵入される前に被害に遭わないに越したことはございません。そのためドアをきちんと施錠する(これは田舎に行けば行くほど意識されていないことが多いです)、明るい駐車場に駐車する、ステッカーを貼るなどの手段も有効な手段なのです。

しかしながら車両犯罪の多い実態を認識している住民のみなさんは本当に少ないのです。友人が被害に遭っても、それはそれとして自分に置き換えてはなかなかイメージできません。そのため『被害に遭ってからでは遅いですよ〜』ということも私は活動の中で呼びかけるようにしています。1人でも多くの人が意識をもって1歩を踏み出すことが犯人に好まれないまちを作ることにつながり、何よりも心強い防犯になっていくからです。

実は過去、私の自宅にもドロボウがやって来て、未遂でしたが家の損傷を受けたことがございます。

確認できた損傷は以下2つでした。

1. 勝手口の網戸を焼かれてしまった。(窓は固定箇所が開いていましたが、ドアが施錠されていたのと、地面から高く床をかったようです。)
2. 雨樋(とい)を上って2階に上ろうとしたのか、割れてしまっている。

睡眠中の6時間もない間の出来事でした。

犯行後しばらくはドロボウが再度やって来るんじゃないかと思って寝られませんし、自宅前で行き交う人はみんな犯人ではないかとも思えてしまって…本当に疲れてしまいました。

折角のマイホームもこれでは意味がありません。

こんなキッカケで、私は遅ればせながら防犯設備士の勉強をし資格を取得することができました。ですからこの気持ち悪い体験をみなさんがされませんように私にもお手伝いができればと思っています。

